

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属

獣医学科

職階

講師

氏名

永根大幹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

○獣医遺伝学

生物学、分子生物学、生化学の知識を基に詳細な遺伝学について習熟する。ゲノムの定義やエピジェネティクスなどコアカリキュラムを超えた最新の科学的な知見を得る。

○獣医生化学実習

本科目において、生化学的な実験手法を学ぶだけではなく、実験器具の使用方法、機器の基本的取扱、グラフの作成方法、化学物質の適切な取扱方法の習得を目指している。

○獣医学特論I&II

研究室での少数でのゼミを通し、研究におけるPDCAサイクルの実践法を学ぶ。また、学会発表などアウトプットの準備を行う。

○卒業論文

獣医学特論での実践の積み重ねをまとめ、卒業論文を作成する。卒業論文の内容は外部発表を義務とする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医遺伝学	獣医学科	必修	2年次	約140名
獣医生化学実習	獣医学科	必修	2年次	約140名
獣医学特論I	獣医学科	必修	5年次	3名
獣医学特論II	獣医学科	必修	6年次	2名
卒業論文	獣医学科	必修	6年次	2名

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育の目標は、科学者たる獣医師の養成である。

獣医学科は国家試験対策が重視される傾向にある。大学として国家試験合格率は非常に重要ではあるが、個々の学生と向き合ったとき、全国平均80%以上が合格する試験の可否は実質的に意味の無いものである。

例えば、全国で年間1,000人程度の獣医学生が国家資格をもって社会にでていくが、偏差値的な旧来の価値を考えると本学含む私立大学の卒業生は下位50%に位置することとなる。

そのため上位10%の獣医師を社会に輩出するためには、偏差値を超えた学術的価値を卒業生に付加する必要がある。以上から、自身の教育の目標は「国家試験に合格しただけの獣医師」の育成ではなく、「科学的な問題解決力を備えた獣医師」の育成である。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

2年次と5～6年次の2学年を担当しており、それぞれ異なった目的を持つ。2年次では、初期教育であるためボトムアップを目的としている。獣医遺伝学により最新の生物学的知見を伝え、今後の研究室への配属含め、研究レベルから教科書レベルまでの知見の蓄積であることを学ぶ。獣医学・生物学はただ一方的に学ぶのではなく、大学での卒論や研究の積み重ねが未来の知識につながっていくことを感じて貰う。また獣医生化学実習では、今後の実習における基礎的なウェット実験のトレーニングを兼ねている。この両科目によって、獣医師養成課程における基礎的なスタンスを作って貰う。

一方で、5-6年次ではトップアップを目的としている。研究室における実際の基礎研究に従事することで、仮説の設定から検証、外部発表までの一連の流れを体験して貰う。また、学会発表や論文発表を通して、進路に関わらずアウトプットの基礎的なトレーニングを実施する。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医学特論および卒業研究において学会発表によるアウトプットを義務としている。

(2) ICTの教育活用

有

學理を活用し、完全なペーパーレス授業・実習・ゼミを実施している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

獣医学教育コアカリキュラム準拠のため

(2) 学生の理解度の把握

A

課題により理解度を把握している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

課題により十分な自学自習を促している。

（４）学生とのコミュニケーション

A

対面とオンライン両方で丁寧な指導を実施した。また、単位未認定だった学生への来年度に向けた対応も実施した。

（５）双方向授業への工夫

B

課題のフィードバックを実施している。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

卒業論文・獣医学特論を通し、通年で問題解決型学習を行っている。また他の公的試験(放射線取扱主任者一種、TEIC、バイオインフォマティクス技術者認定試験 など)を受験させることで試験への順応性を高めた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

教員に責務のある項目で平均以上の評価であり、継続して実施した。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

自由記述欄よりグループワークが苦手な学生からの評価が低いように感じる。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

グループワークのチーム分けなどで改善する

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

研究活動を通し、“学力”と“思考力”を卒業時まで持続的に成長させることが重要であると考えている。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

所属学生が卒業論文のポスター賞を受賞した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FDには時間が許す限り参加しているが、出張や研究遂行上の理由から参加できない場合があったが、今年度は動画配信などがあったため、十分に参加することができた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期的な目標：ボトムアップを目指す。

長期的な目標：研究が理解できる獣医師の輩出を目指す。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・ 授業シラバス
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 6年生の就職状況
- ・ 学科会議資料における卒業論文ポスター賞投票結果
- ・ リサーチマップ (<https://researchmap.jp/masakinagane/>)